

コロナ禍におけるイベント開催の感染対策目安〈山口モデル〉

参考資料（詳細等）

【山口モデルについて】

イベント開催の感染対策目安・山口モデルは、「イベント開催に判断までのフロー」のとおり、最初に「政府の段階的緩和の目安」をクリア、続いて「業界の感染対策ガイドライン」をチェックしたあと、イベント開催に向けて目安として感染対策を構築する上で参考にしていたきたい感染対策の目安とする。

この感染対策目安が目指すものは『主催者・施設管理者と観客・参加者が一緒に作り上げる安全・感染対策』であり、

- ・「イベントの入り口対策」
- ・「観客・参加者」への対応、啓発

感染対策の重点ポイントを見える化して、注意しながらもイベントに参加していただけるものとする。

もう一つのポイントは、感染状況に応じた感染対策の目安を考察することで、「安定した安心」、「万全の対応」を目指し、イベントの開催の可否を検討しやすい土壌づくりを行うことで、一般市民皆様にも安心して参加いただき、イベント開催を検討しやすい土壌づくりに寄与するものとする。

【警戒レベルについて】

- 「高」・・・市内で感染者（感染経路不明）が複数発生して間もない状況で、感染線経路が特定できていない状況
- 「中」・・・上記「高」の感染者の感染経路を特定と濃厚接触者のPCR検査が完了、市中感染拡大の懸念が無いと判断できた時点
- 「低・予防警戒」・・・上記「高」の感染者からの市中感染拡大の懸念が無い事が確認され、かつ、最初の感染確認から概ね10日間程度経過し、その後も感染者が発生していない状況

【対策補足】※山口モデル参照

A) 【重症化のリスクが高い高齢者等に配慮した感染対策】

配慮する対象は、高齢者だけに限らず、基礎疾患がある方など重篤化が特に懸念される方を対象とし、感染対策を行う。

B) 【会場で十分な消毒対応】

会場での消毒対象は、屋外、屋内それぞれの状況下で参加者が触れそうな箇所（手すり、ドアノブ、トイレなど）を、業界のガイドラインを踏まえて十分に対応して対策をとる。

C) 【会場入り口、屋内会場で定期的な衛生対策】

会場入り口で観客・参加者に消毒を奨励する際、アルコール過敏症の方へノンアルコール除

菌用品を用意するなど配慮が必要。

「接触確認アプリ（COCOA）」は、特に警戒レベル「高」「中」の時は、導入を条件に会場入口で確認して入場してもらうよう対策する。

＜「接触確認アプリ（COCOA）導入が難しいスマホの方への対応＞

○機種およびOSバージョンが古いスマホは「接触確認アプリ（COCOA）」をインストールできないため、OSのバージョンが古い場合は、バージョンアップを先にしないとアプリのインストールが出来ない（2020年5月26日時点で「iOS 13.5」以上および「Android 6.0」以上が必要）。

○上記理由のため会場入口で「接触確認アプリ（COCOA）」をインストールできない場合は、主催者が用意する用紙に、氏名、連絡先を必ず記入する、または主催者が用意するタブレットで同様の情報提供をしてもらった上で入場を許可するという措置により十分な対応としたい（ただし、警戒レベル高、中の場合）。

- D) 【サーモグラフィ機器、参加者セルフチェック&連絡先確保システムの（レンタル）導入】
参加者の氏名、連絡先について、タブレット・アプリの活用や、連絡用紙記載により収集する。
- E) 【観客・参加者へ感染対策マナー向上を啓発・周知】
参加者へ感染対策マナー向上を周知・啓発するため行政や組合などが啓発ポスターデータを作成し、届け出制でデータを周知啓発活動に活用できる（印刷は各自）ようにする。
- F) 【県防災危機管理課へ事前相談】
参加者が1000人を超え、全国的な人の移動を伴うイベントを開催する場合は、山口県防災危機管理課へ事前相談するが、保健所など関係各所にも十分に相談する。
- G) 検温によりスタッフの健康状態を把握することで、感染予防対策の一役を担うと考えられる。
スタッフ各人が開催日の1週間前から検温を行うものとする。
- H) イベント当日の検温、チェックリストを活用し体調を確認。厚労省が出した『接触確認アプリ（COCOA）』のインストールを条件に参加する
C) で参加者がマナーを守って行動できるよう、活用できるチェックリストを掲示し、『接触確認アプリ（COCOA）』の導入を参加者各自で行動するよう啓発を行う。E) のようにHPサイトやポスター掲示など効果ある方法で周知対応する。
- I) 主催者が用意する用紙に参加者氏名を記入する。イベントの後、主催者情報で感染発生の有無を確認し、発生の場合は各自が主催者へ連絡する。
D) のとおり、主催者が用意する用紙又はタブレット・アプリを用意し、参加者氏名、連絡先など個人情報観客・参加者に届け出る仕組みを準備し、HPなどで参加者へ啓発する。
参加者セルフチェックと連絡先確保システムへの対応が難しい場合は、感染発生の際、主催者が公表し、参加者からの連絡に対応する窓口を設置。公表と対応窓口の周知を徹底する。

【観客・参加者マナーアップについて】 -----

E)、H)、I)にあるとおり、観客・参加者に向けて、各自が行う感染対策、会場入り口での個人情報提供、『接触確認アプリ（COCOA）』のインストール協力など、HPサイト、ポスター掲示などを通じて啓発し、マナーアップ向上を行う。